Special Issue

いざ、ネクストステージへ。

シン・ファミリ会はじまる。

祝・創立60周年。
還暦を迎えたFUJITSUファミリ会の
新たな冒険がはじまります。

FUJITSUファミリ会 会長
第一生命テクノクロス
株式会社 取締役会長
佐藤 智

富士通株式会社
代表取締役社長
CEO
時田 隆仁

変革への第一歩を踏み出した FUJITSUファミリ会のチャレンジを語りつくそう

2024年、創立60周年を迎えたFUJITSUファミリ会は、会員企業の皆様に価値を提供し続けていくため、将来の「あるべき姿」に向けた変革をスタートさせました。
ファミリ会が目指す「あるべき姿」、その実現に向けて求められる富士通の具体的な取り組み、そして未来に向けた想いなどをテーマに、FUJITSUファミリ会会長の佐藤 智と、富士通 代表取締役社長の時田 隆仁が語り合いました。

Contents 会報Family VOL.413

2 Special Issue
佐藤会長×時田社長トークセッション

8 ICTトレンド
ゲームの世界を飛び出して、将来はオリンピック種目に? 急成長する「eスポーツ」の可能性

12 講演録
Enjoy Baseballを通じた組織づくり、人づくり

15 **Family's Information**

16 Family's Event Picks
- **川崎重工のDX戦略**
  ～デジタル推進の成功事例に学ぶ～
- **新たな視点で企業の未来を切り開く**
  ～Tech LabでDX人材を育成する方法～

22 Globalセミナー
世界最先端のDX・SX大戦略

佐藤会長×時田社長 トークセッション

新生ファミリ会が目指す「あるべき姿」

創立60周年を迎えたファミリ会 これからの「あるべき姿」とは

時田：今年はファミリ会創立60周年ですね。長きに渡って、富士通の事業に多大なるご支援と有益なご示唆を頂戴してきました。心よりお礼を申し上げます。

佐藤：発足からの歴史を振り返ると1964年に「FACOMファミリ会」という名称で37社からスタートし、1990年に「FUJITSU ファミリ会」に名称を変更。1992年には会員数が5000社を超え、現在は約3500社を擁する日本有数のICTユーザー会です。

時田：そのファミリ会では、会員企業の皆様に新たな価値を提供し続けていくための変革に取り組んでいらっしゃいます。昨年12月に佐藤会長からご説明いただいていますが、変革に取り組んだ背景、その内容についてお聞かせください。

佐藤：変革を検討するに至った背景には、コロナ禍を経ての会員数の減少、会員のイベント等への参加率が50%程度であること、また、富士通ユーザー会であるのに富士通が関与できていないことなどがありました。さらに、NECのユーザー会が昨年3月に解散し、その前にはIBMや日本マイクロソフトのユーザー会が解散、残っているのは富士通と日立製作所のユーザー会だけになってしまったことも、ユーザー会の存在意義を考え直す契機になりました。当初は解散も選択肢に入れて良いのではないかと考えていましたが、解散は後からでもできるので、やはり考えるべきはファミリ会を「どう有意義にしていくか」ということ。その視点に立って、ファミリ会の「あるべき姿」を描いてみようとなったのです（図1）。

2022年秋にファミリ会役員の有志とワーキンググループを立ち上げて、「あるべき姿」について1年ほど議論を重ねました。そして、「あるべき姿」を「会員企業の課題解決に向けて、会員と富士通が共に考えて研究討議し、実践し、解決につなげることで、富士通を含む会員企業の利益増進、地域および社会の成長発展に寄与する姿」と定義しました。

検討の中では「あるべき姿」を実現するために何が必要かも議論しました。必要なことは会員企業の「経営層の参加」、「富士通の参画」、それらを踏まえたうえで「ファミリ会にしかない価値の創出」です。これがWGの議論を経てたどりついた結論です。

今や多様で複雑な社会課題を一つの企業で解決するのは難しい時代です。企業同士の協業が重視される中、ファミリ会が会員企業の課題を解決する組織となるには、協業に向けて会員企業のIT部門だけではなく経営層にも積極的に参画してもらうことが重要です。さらには、会員企業が富士通の持つ先進的なテクノロジー提供などの支援を受けながら、直面する課題を解決していくことが社会課題の解決につながり、地域社会、日本、世界に貢献していくことになると考えています。

図1）あるべき姿WGが定義したファミリ会の「あるべき姿」

ファミリ会のあるべき姿

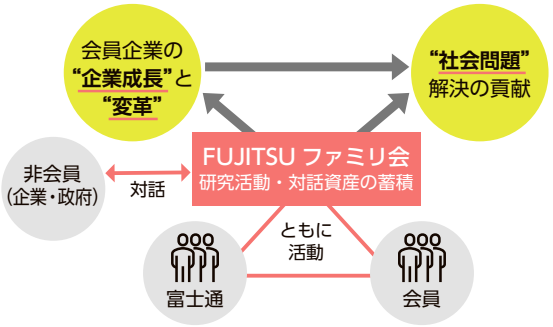
あるべき姿の定義

会員企業の課題解決に向けて、会員と富士通が共に考え、研究討議・実践し、解決につなげることで、会員企業（富士通含む）の利益増進、地域および社会の成長、発展に寄与する姿

あるべき姿実現のために必要な状態

経営層の参加	1社では解決できない企業課題について、経営層が互いに議論し、方向性を見出す場が必要。
富士通の参画	会員企業と伴走しながら会員企業と富士通が共に Win-Win の関係を構築。
ファミリ会にしかない価値の創出	研究、討議、実証実験などの実践を通して、今までにない発想や解決策を見出せる環境の構築など。

ファミリ会は国内の企業群が集い、会員企業が成長し、社会の発展に寄与する団体となる



佐藤会長×時田社長 トークセッション

ファミリ会と富士通のパートナーシップを強化

ファミリ会は富士通にとっての重要なパートナー

時田：ファミリ会の「あるべき姿」については、富士通もまったく異存はありません。富士通では2020年に、複雑な社会の中で世界をより持続可能にしていくということをパーパスとして掲げましたが、パーパスとも方向性が合致します。

私は、多くのお客様やステークホルダー、メディアなどから「富士通の強みは何ですか」と聞かれることが度々あります。それに対して、私は「あらゆる産業の中に富士通を支えてくれる多くのお客様がいること、このお客様基盤が富士通の成長を支えており、富士通の強みである」と答えています。

富士通はこの考え方に則って、ファミリ会を重要な我々のパートナーとして位置付けています。

また、ファミリ会と富士通の関係性についての課題認識についても同意します。今まで富士通は正直に言えば、ファミリ会に対して遠慮があったかもしれません。ファミリ会と会員企業の自立性や独自性を尊重し過ぎて、関与が薄くなったことは反省すべきだと感じています。これまでは、会員企業を単なる「お客様」としてしか見ていなかったかもしれませんが、本来は富士通がファミリ会にとって代えがたいパートナーにならなければなりません。

会員企業の皆様には、富士通は自社の成長と社会への貢献を果たすための重要なテクノロジーを有するパートナーだと見なしていただき、我々も会員企業の皆様とコラボレーションして富士通のテクノロジーを使ってもらい、フィードバックをもらう。そうしてより良い社会のためにお互いの力を合わせようという関係づくりにもっとフォーカスすべきと感じます。

佐藤：「あるべき姿」を実現するためには、ファミリ会にしかない価値の創出が必要と説明しました。ファミリ会にしかない価値とは、ファミリ会と富士通が社会課題をどう解決していくかを共に考えていくことで、会員企業も富士通も成長していける「Win-Winの関係」を作り出すことだと考えています。

ファミリ会が目指すポジション

1. 経営課題・社会課題解決実践
2. 実務的な企業間連携
3. 社会／業界への提言・価値提供

対話をもっと増やしファミリ会に積極的に関わっていく

佐藤：「あるべき姿」の実現には富士通の参画が不可欠です。富士通としてどのような参画を考えているのかお聞かせください。

時田：ファミリ会に対して富士通のトップからボトムまで、各階層においてしっかりと協業できるように取り組みます。ファミリ会とのコラボレーションをもっと誘発できるようなコミュニケーションをとれるかどうかが大切で、私をはじめ役員、経営層が直接、皆様といろいろなオンとオフの会話をするような場を積極的に作っていきたいと考えています。

そして、会員企業の皆様と経営課題を共有し、富士通がどのように取り組んでいるか、会員企業がどう解決しようとしているか、さらにクロスインダストリーで社会にどのような価値を提供するか、そのような経営目線でのコミュニケーションを増やしていきたいです。

会員企業の皆様と富士通のBP（営業担当）やSEとの関係性についても、積極的に経営から後押しして強化していきます。今までのようなカタログベースでのソリューションの紹介だけではなく、お客様の現場目線での課題を収集し、

佐藤会長×時田社長 トークセッション

新生ファミリ会の変革ポイントとは

それを経営まで届けられるようなコミュニケーションやコラボレーションにつなげていきたいです。

さらに、富士通研究所のファミリ会への参画も積極的に進めていきます。今、デジタルトランスフォーメーションやグリーントランスフォーメーションを推進するテクノロジーの重要性が世界中で論じられています。富士通研究所がファミリ会にこれまで以上に積極的に参画することで先進的なテクノロジーを提供し、一方では富士通がどのようなテクノロジーを開発し、ご提供していくべきかについてのご意見もファミリ会からお聞きしたいです。こうした具体的な対話の場をもっと増やして、経営課題をしっかりと共有し、そこから事業につなげて社会に届けていきたい、そのような良いサイクルを共に作っていきたいと考えています。

変革に向けてファミリ会が取り組む4つの取り組みテーマ

時田：ファミリ会が取り組もうとしている重要なテーマについてもお聞かせください。

佐藤：「あるべき姿」は、2030年度を当面のゴールとして描いています。2024年度が変革のスタートの年です。

4つの重点テーマを掲げて様々な取り組みを実行しますが、1つめのテーマは「人材」です。2つめのテーマが「2025年の崖」で、これはレガシー遺産のモダナイゼーションに関連する取り組みです。3つめが「SDGs対応」です。もうすでに多くの企業がSDGsの問題に取り組んでいますが、カーボンニュートラルをはじめとした課題解決の取り組みをファミリ会としても後押ししていきます。4つめは「先進テクノロジーへの追従」です。これは、主に生成AIの業務活用環境の構築、活用実践などの取り組みです（図2）。

このようにテーマを決めましたが、重要なのはテーマよりも「テーマへの取り組み方」です。「ファミリ会と富士通が共に取り組む」ことで課題解決につなげていく、このことをしっかりと共有し実践することが大切です。

時田：4つのテーマは富士通の経営テーマとも合致します。人材育成は喫緊の課題であり、富士通とファミリ会の会員企業との間で人材の流動化が可能となるような取り組みも考えています。デジタル人材をはじめ、ITに精通した人材が少ないという悩みは各企業にあるでしょう。そういった企業に対して富士通がデジタル人材の輩出元となって解決するような取り組みです。

「2025年の崖」についても、富士通ではモダナイゼーションやマイグレーションへの集中的な取り組みを事業の柱に掲げています。ファミリ会の会員企業とともに取り組みながら、ナレッジやノウハウを蓄積し、フィードバックを得ながらファミリ会の中で共有していけるような取り組みを進めていこうとしています。
SDGsやサステナビリティは、多くの企業が事業の中で取り組まなければならない状況になっていると認識しています。特にサステナビリティについては、ファミリ会の中にも、格差是正や自然との共生の視点で重点的に取り組んでいる企業が多いと感じています。富士通は、まだまだ取り組みが十分とは言えませんので、良い事例をファミリ会と共有して、富士通自身のサステナビリティの取り組みにご協力をいただきたいと考えています。

図2）ファミリ会2024年度　取り組みテーマ

人材	採用・エンゲージメント向上など
2025年の崖	モダナイゼーション・マルチベンダーなど
SDGs対応	カーボンニュートラル、サプライチェーンマネジメントなど
先進テクノロジーへの追従	生成 AI・Web3.0 など

また、生成AIに代表される先端テクノロジーでは、「どのように社会実装していくか」の視点で取り組んでいます。その取り組みをさらに進めるには、より多くのお客様に使っていただき、フィードバックを受ける必要があります。ファミリ会の会員企業に多くご活用いただき、ファミリ会に所属しているメリットをより感じられるような取り組みを、経営、コーポレート部門、研究所、BPやSEなど顧客フロントが同じ目線で進めていきたいと考えています。

佐藤会長×時田社長 トークセッション

新生ファミリ会の変革ポイントとは

ファミリ会は社会課題解決に向けた富士通モデルのプラットフォームに

時田：富士通が掲げている「Fujitsu Uvance」は、クロスインダストリーで社会にポジティブなインパクトを与えていこうとする新たな事業モデルです。この事業モデルを支えているのは、富士通のコアであるテクノロジーであり、そこから得たフィードバックを元により良いテクノロジーを開発し続けていく、それがテクノロジー企業としての責務だと考えています。

社会にポジティブなインパクトを与え、少しでも持続可能な世界に近づけていく、そのためには様々なステークホルダーとの協業が不可欠です。ファミリ会と会員企業とのコラボレーションを通じて、日本や世界にいろいろな提言やメッセージを発信できるようになると、富士通もファミリ会ももっと大きな社会的な責任を果たせるようになると期待しています。

富士通はファミリ会の変革とともに、ファミリ会との関係性を変えていきます。より両者が持続的に成長し、社会にとって大きな責任を果たせるような大きなコミュニティに変わります。富士通は、しっかりとファミリ会を支えるということをお約束します。引き続き、ファミリ会会員企業の皆様には、ご支援、ご協力をよろしくお願いします。

佐藤会長×時田社長トークセッションの様子は、動画でもご覧いただけます。

佐藤：ファミリ会というプラットフォームが、DXやテクノロジーで様々な社会課題を解決する「富士通モデル」のプラットフォーム、もしくは日本モデルのプラットフォームを担っていければ、日本が再び経済的に世界を牽引していくことができるでしょう。ぜひ、Win-Winの関係で成長していくようなプラットフォームにしていきたいと考えています。

ファミリ会は、未来に向けて大きく変わろうとしています。会員企業の皆様はぜひ、このコミュニティに積極的に参加していただいて、自社の成長発展に大いに活用していただきたいと思っています。それは富士通の皆様も一緒です。ファミリ会を大いに活用していただいて、ビジネスの芽を見つけ、それを広げ、世界にまで拡大していただきたいと考えています。ぜひ、共に歩んでいきましょう。

FUJITSUファミリ会 2024年度からの新たな活動

ファミリ会の新しい目的(会則改定)

会員企業を取り巻く環境は刻々と変化し、また、複雑化する中で、1社だけで解決が難しい課題が増大している。ファミリ会は、会員企業と富士通が共にこの課題解決に取り組み、さらに、地域・社会に貢献する会へと成長するため、新しいファミリ会の目的を会則に定めた。(5月17日の代議員総会で会則改定を承認)

第1章 総則 第2条(目的)
本会は会員企業の課題解決に向けて、会員と富士通が共に考え、研究討議・実践し、解決に繋げることで、会員企業の利益増進、地域および社会の成長、発展に寄与することを目的とする。

活動を推進する新たな委員会が始動

新たな活動を推進する事業企画委員会を設立。4つのワーキング・グループが、「あるべき姿」の実現に向けた施策の企画や実行、課題解決に取り組む。

委員会・WG	目的
■事業企画委員会 委員長: 杉井常任理事	**WG全体の整合性を取って取り纏め、理事会、常任理事会へファミリ会の新しい価値提供に向けた案を報告・発議する。**
■施策推進WG 責任者: 杉井常任理事(兼)	ファミリ会の新たな価値を創出する具体的な施策を企画・実行し、ファミリ会の会員へ提供する。
■ブランド検討WG 責任者: 窪田常任理事	ブランド戦略を立案し、認知度向上WGと連携して施策を実行し、ファミリ会の新たな価値や変革のイメージを内外(会員・非会員・富士通内)に印象付ける。
■収支検討WG 責任者: 竹田常任理事	ファミリ会の新たな価値を会員へ提供するために最適な収入(会費)と支出(予算配分など)の構造を構築する。
■認知度向上WG 責任者: 大林常任理事	現在のファミリ会の活動や、新たな価値・変革の内容(施策推進・ブランド検討WGと連携)を、会員だけでなく非会員や富士通社内への周知を強化し、ファミリ会の認知度を向上させる。

2024年度の活動方針

1. 取り組みテーマ

2024年度は以下を全体共通のテーマとし、解決に向けて取り組む。

- 人材(採用、エンゲージメント向上など)
- 2025年の崖を跳び越える(モダナイゼーション、マルチベンダーなど)
- SDGs対応(カーボンニュートラル、SCM など)
- 先進テクノロジーへの追従(生成 AI 、Web3.0 など)

なお、各地域固有のテーマがある場合は、各地域が主体的に取り組む。

2. 解決に向けた活動

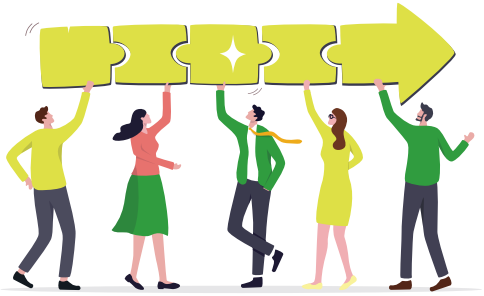
同じ課題認識を持つ会員(経営層、実務層)が集い、原因理解と解決に向けて仮説立案を行い実践し、実践により得られた結果を評価・検討・分析し、会員へ共有する。

3. 課題解決に必要な情報収集

課題解決に必要なコンテンツを提供する。

4. 地域を超えた活動

各地域の枠を超えた活動の展開と、地域の情報発信による地域間連携の強化。



2024年度のコミュニティ活動

● 取り組みテーマ

事業課題			
人材	2025年の崖	SDGs対応	先進テクノロジーへの追従

● 全国コミュニティ(案)

経営層コミュニティ	実務層コミュニティ
経営者セミナー	テーマ選定・課題選定 インプット
▼	▼
意見交換会	取り組み内容決定 計画・環境準備
	▼
	活動まとめ・発表

● 支部コミュニティ(案)

支部内・支部間のインタラクティブな活動

2023年度活動のうち
2024年度テーマに該当する取り組みの継続

▼

意見交換や課題解決に対する検討の場の拡大

▼

意見交換や課題解決に対する検討で出た
参加者の声などを共有

▼

取り組み内容を広く会員へ発信